

- ③ 山本 守 (兵庫県)
- ⑫ 菅光江 文江 (奈良県)
- ⑭ 西浦 英子 (奈良県)
- ⑫ 上田 信子 (奈良県)
- ⑭ 武田 れい子 (奈良県)
- ⑭ 堂 阪 清文 (奈良県)
- ⑭ 堂 阪 美寿恵 (奈良県)
- (五、〇〇〇円)
- (島根県) ④ 土崎 俊三
- (広島県) ② 中村 勳史
- ⑩ 榎原 彰夫
- ⑭ 森本 勝士
- (山口県) ④ 鈴木 和典
- ⑨ 岡田 敏彦
- ⑮ 伊原 史香 (愛媛県)
- ⑳ 藤原 政夫 (愛媛県)
- ㉔ 西谷 博志
- ㉔ 西谷 邦子
- ④⑥ 宮浦 由香里 (高知県)
- ④⑧ 清野 幹史 (高知県)
- ⑦ 田中 隆夫 (佐賀県)
- ③ 江頭 茂喜 (佐賀県)
- ③ 橋口 俊視 (長崎県)
- ⑦ 山本 信一 (熊本県)
- ② 吉本 富男 (熊本県)
- (4) 安達 功 (大分県)
- ⑮ 後藤 秀一 (宮崎県)
- ⑬ 興 裕 善彦 (宮崎県)
- ⑬ 園田 正平 (宮崎県)
- ⑮ 湯浅 紀久子 (会費から修正)
- ③ 国井 知子 (鹿児島県)
- ⑧ 江崎 光守 (鹿児島県)
- ⑪ 上木 義彦 (鹿児島県)
- ⑭ 川元 昭司 (沖縄県)
- ⑰ 大城 昇 (沖縄県)
- ⑳ 宮平 エミ (沖縄県)
- ⑳ 田嶋 勝子 (沖縄県)

常任委員会報告

平成六年十月二十九日(土)開催の定例会は、専ら、会の財政確立並びに学園創立五十周年記念事業対策に終始し、会費の納入及び寄付応募促進運動の具体的手法を決定、実行可能なものから実施することと合意された。

項目別協議内容は、次のとおりである。

一 財政確立対策

- (1) 会費納入依頼
 - 会費納入通知書と同じ納入依頼書
 - によって、未納者全員に対して督促する。
- (2) 都道府県支部長への要請
 - ③ 卒期別納入促進運動の展開
 - 同期生会世話人又は幹事等に依頼

二 創立五十周年記念事業対策

- (1) 実行委員会の設置
 - 第二十一回大会で承認された「鯉淵学園創立五十周年記念事業の進め方」三の、本会独自の記念事業実行委員会は、本部役員を主力に、関東圏の支部長を構成員として組織する。関係各位の承諾を得て、活動を開始する。
- (2) 都道府県支部長への要請
 - 財政確立対策同様、事業の趣意が、支部活動を通じて、全会員に、正しく理解され、賛同が得られるように指導、支援をお願いする。
- (3) 卒期別応募促進運動の展開
 - 卒期別発起人及び世話人並びに幹事等に依頼して、記念事業の趣意徹底を図る。
- (4) 寄付応募並びに追加応募依頼
 - 当初作成配付した寄付応募要領と同じ依頼書によって、全員にお願いする。この年末を最大の山場として、会員の奮発を期待する。

三 その他

- (1) 会員名簿の作成
 - 名簿在庫が一〇三冊となり、平成七年四月、新入生配付用に補充する

して、同窓会活動参入意識の高揚を図る。

また、本部役員は、同期のまとめ役として、積極的に活動する。

- (4) 寄付応募促進運動と歩調を合わせて実行する。

二 創立五十周年記念事業対策

(1) 実行委員会の設置

第二十一回大会で承認された「鯉淵学園創立五十周年記念事業の進め方」三の、本会独自の記念事業実行委員会は、本部役員を主力に、関東圏の支部長を構成員として組織する。関係各位の承諾を得て、活動を開始する。

(2) 都道府県支部長への要請

財政確立対策同様、事業の趣意が、支部活動を通じて、全会員に、正しく理解され、賛同が得られるように指導、支援をお願いする。

(3) 卒期別応募促進運動の展開

卒期別発起人及び世話人並びに幹事等に依頼して、記念事業の趣意徹底を図る。

(4) 寄付応募並びに追加応募依頼

当初作成配付した寄付応募要領と同じ依頼書によって、全員にお願いする。この年末を最大の山場として、会員の奮発を期待する。

三 その他

(1) 会員名簿の作成

名簿在庫が一〇三冊となり、平成七年四月、新入生配付用に補充する

必要がある。

作成部数 五〇冊

平成四年二月発行名簿の複製

- (2) 会計規則(仮称)の骨子についての確認事項

◆会計責任者を事務局長とする。

- (3) 顕彰規程(仮称)の骨子についての確認事項

◆顕彰対象者を、教職員を除いた事務、技術職員とし、在職二十年以上の定年退職者とする。

■会議出席者

- (役職、氏名、卒期、所属の順)
- 会長 福丸 博房⑨ 埼玉
 - 副会長 高橋 隆三⑨ 茨城
 - 副会長兼常任委員長
 - 常任委員 吉川 昭雄⑪ 茨城
 - 岩持 文彦⑦ 茨城
 - 稲川 正夫⑬ 茨城
 - 船橋 和枝⑱ 茨城
 - 根本 保夫⑮ 茨城
 - 篠原 要一⑩ 栃木
 - 関口 義明⑦ 群馬
 - 住吉 達男⑰ 東京
 - 西村 典夫④ 学園
 - 砂田 義雄⑤ 学園
 - 坪野 敏美⑦ 学園
 - 工藤 徹郎④⑩ 学園
 - 佐藤 利文④⑤ 学園
 - 河内 雅幸④⑥ 学園

支部・同期の動向

平成六年七月から十一月初旬まで、事務局に寄せられた情報をもとにお知らせします。ただし、この期間に実施された行事であっても、既に予定として報告済のものは、当事者からの投稿以外、割愛しましたので御了解ください。

また、折角お寄せ頂いた原稿でも、五十周年記念事業関係の記事が多いことから、紙面不足で発表遅れのものがありますが、お許しください。折をみて、必ず、掲載いたします。

会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆本部派遣役職員の順に記載します。

○数字は卒期、括弧内は通信卒期。

愛媛県支部総会

◆平成六年八月二十日(土)

◆支部長 梶谷 勝正⑦

◆出席者 一五名

◆決定事項

①会費は、終身で十月三十一日までに納入する。

②創立五十周年記念事業寄付は、一口以上十月三十一日までに応募する。

③明年十一月の記念大会には、積極的に参加する。

④役員改選

支部長 岡 一郎⑩
副支部長 白石 幸雄⑮
会計 上甲 修三⑳
幹事 大塚 俊秋㉑
幹事 加藤 尚㉒

岩手県支部総会

◆平成六年十月一日(土) 二日

◆北上市和賀町・夏油(げとう)温泉
「元湯夏油」

◆支部長 高橋 利清⑨

◆出席者 一八名

(盛岡分会) 小川昭伍⑤ 杉本文午⑤
加藤謙次⑭ 佐藤英孝⑳

(紫波分会) 久保良雄② 芳賀正美⑭
佐々木一夫㉑

(花巻分会) 佐々木羊三⑦ 阿部 豊⑨
高橋利清⑨ 及川文雄⑪

(北上分会) 加藤勝信㉒ 菊地博美⑲
鈴木 実⑦ 高橋由一⑳

(胆江分会) 久慈宗悦㉓
久慈宗悦㉓ 芳賀正美⑭

(両磐分会) 及川敬士⑨
遠野分会 留場栄一⑬

(遠野分会) 留場栄一⑬
※気仙、宮古、久慈二戸の三分会からは、出席者なし。

◆派遣員 高橋隆三⑨(副会長)

山口県支部総会

◆平成六年十月二日(日)

◆小郡町集会所

◆支部長 阿川宗十郎⑤

◆出席者

梅下 巖② 本田 郁二⑤
阿川宗十郎⑤ 三浦 一男⑦

原田 美幸⑨ 岡田 敏彦⑨
岡本 正⑨ 木村 勲⑮

三好 堯⑳ 国行 佐敏㉑
田中 耕二㉒ 伊藤 文江㉑

吉富 克之㉓ 井原 史香㉓
志賀 邦雄(4)

◆派遣員 岩持 文彦⑦(事務局長)

(山口県支部懇親会記念写真)



(写真説明)
前列右から国井②、本田⑤、梅下②、岩持⑦、伊藤⑳、井原㉓、三浦⑦、

後列右から吉富㉓、木村⑮、原田⑨、岡田⑨、岡本⑨、志賀(4)、三好⑳、阿川⑤、(田中㉒はカメラマン)。

第二十六期生会

◆平成六年九月二十三日(金)

〓二十四日

◆茨城県内原町 旅館「湯泉荘内」

◆出席者

(北海道) 荒川 仁 中村 正光
大西 繁松 走出 栄八

(青森) 水永 文隆

(山形) 保科 周三

(茨城) 高島 信夫 秋田 秀忠
須田 哲也 村上 紀夫

与儀 実光 宮内 幸司
村上 幸子 堀田美枝子

鈴木 広美 豊崎 道子

(埼玉) 吉田 健治 前原 敬
石田 善吾 住谷 里子

(千葉) 藤井 隆之 林 喜枝
東 京 土方 貞信 青木久良子

(神奈川) 高橋紀三男 本池 弘文

(香川) 山上 仁 松野 昭子

(長崎) 山口 武

(熊本) 吉田 喜幸

(沖縄) 宮城 勝繁 以上三一名

◆派遣員 砂田 義雄⑤(常任委員)

第二十三期生会

◆平成六年十一月五日(土) 〓六日

◆開催地 熊本市

◆出席者 五〇名

◆派遣員 砂田 義雄⑤(常任委員)

支部長人事

埼玉県支部長 山崎 彰^② 新任
愛媛県支部長 岡 一郎^⑩ 新任
福岡県支部長 村田 芳郎^③ 新任

哀悼

福島 毅^② 岡山 平成六年五月
糸井 靖彦^⑩ 栃木 平成六年八月

鯉淵学園創立五十周年記念事業委員会発足

農民教育協会の新会長に、十月四日の理事会で豊田計氏（全中会長）がご就任下さることが決まり、理事会メンバーを構成員とする鯉淵学園創立五十周年記念事業委員会も同時に発足致しました。

農民教育協会として募金事業を本格的に開始することになったわけです。図書館建設費の国庫助成一億七千六百六十四万五千円は今年予算で決まり、同窓会は三月末に募金を始めましたので、早速茨城県、農業団体、農業関連会社、在学生父兄等に趣意書を送り募金をお願いしていくことになりました。

国庫助成に上乗せする六千三百万円の募金は、同窓会員の応募状況や団体等の打診状況では、時期も悪く非常に厳しいようです。しかし学園としては、来春スタートする四年制を成功させるためにもこの事業を是非成功させたいと念じております。

今後の募金に当たりまして、卒業生の皆さんに種々ご協力、ご支援いただきたいと考えておりますが、その節は何卒よろしくお願い申し上げます。



図書館完成予定図

鯉淵学園・創立五十年史編集に当り、 ご寄稿など依頼について

五十年史編集分科会

前略・いよいよ五十周年記念式典も一年後と近づいてまいりました。五十年史分科会でも、五十年の歩みを振り返って、できる限り正確な記録としてそれを残し、同時に、私たちの鯉淵学園がますます充実発展して、日本農業の進歩改善に貢献する活力を生むような記念誌にしたいと願いながら編集作業にとりかかりました。五十年史の内容は、学園教育の理念と展開、農場の運営と実践、全寮生活の変遷、対外教育活動、そして、卒業生の組織と活動・その他、全体をA5版・五百頁程に纏められればと話し合っております。つきましては、皆様にもご参画頂き

たく、取り分け、学生時代の忘れ難い思い出や是非記録に止めて置きたいことなど、一件二千字くらいで寄稿下さるようお願い致します。用紙は電話やハガキなどで学園教務部に一報賜りたく存じます。また写真もお貸し頂ければ幸甚でございます。出版は平成八年三月の予定ですが、編集・印刷の都合がございますので、平成七年六月末を期限とさせていただきます。ご多用の所、誠に恐縮に存じますが、五十周年の記念事業に相応しい出版となりますよう、皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

鯉淵学園十一期同期会開催される

昭和二十九年四月、北は北海道から南は庵美大島まで、それぞれ故郷の標準語をたずさへ、もっとも標準語に近い？あの広大な地、満州を思わせ日輪兵舎のある、鯉淵に集い40年の節目を迎えるにあたり、第五回目の同期会を、平成六年七月一日、十五時より、東京虎の門パストラル（旧農林年金会館）にて開催しました。

- 同期生四十名、先生方四名に福丸同窓会会長をお迎え
- 一、総合同会 村田和彦（静岡）の音頭、寮歌で始まり、物故者同期生十三名、先生方八名のご冥福を祈り全員でもくとう
 - 二、発起人を代表し鈴木昭司（神奈川）の挨拶、各先生方の挨拶、近況報告に続き
 - 三、鯉淵学園同窓会の現状報告を、福丸会長より報告、五十年事業内容並びに募金活動状況と依頼を受ける
 - 四、同期生それぞれの現状報告を手短かに

行い、最後に出席出来なかった同期生の現状便りを報告し

第二部宴会へ

一、総合同司会 清水一昌（静岡）につつき

二、挨拶並びに先生方の便りを報告、宮地勉（東京）

三、乾盃の音頭を、上木義彦（鹿児島）

四、中締め音頭を、佐藤一春（北海道）

五、閉会のお礼を、鹿又ワカ（東京）で盛大に終了

翌日流れ解散の予定が、なごり惜しく喫茶室に集い、次回開催地岩手を決め、西へ東へ再開を約し散会

幹事役一同 全員の出席を希望し、二年前から準備開始、海外へも呼び掛けたがエアメールは、所在不明のスペイン語で二名とも四十日〜五十日で返送され呼び掛ける事が出来ず残念だった。

末は大臣か、肥桶け担ぎの人生か、大きな夢を握り締め、集った仲間も、農業後継者として立派に肥桶けを担がれたり、大臣にはなれなくてもそれに近く、地域社会に貢献されている方、それぞれの事情はあるにせよ、何度呼び掛けても出席されなかった方々、出席者の集合写真も全員に送りましたので、懐かしく感動された方は是非共、次回には出席してくださいようお願いいたします。北海道から喧嘩ばやい熊も、農業改良普及員として活躍山形の仙人も群馬の宝川温泉から、いつまでもわかかわかしい美女も、沢渡り温泉から、南国の地庵美徳之島から関牛士が、

始めて参加してくれた。次回岩手の幹事さんにはご苦労だが、元気な同期生諸君全員の参加を望みつつ同期会報告とします。

最後に今回出席された先生方に、厚くお礼を申し上げると共に、今回出席されなかった先生方も、それぞれ健康に留意され、岩手の温泉での再会をお待ち致しております。

宮地 勉記



第五回「多摩・八王子有志の集い」

八月六日（土）八王子「銀座高松」で開催

この集いは、地域同窓会有志の集いとして、世話人金子④、住谷⑦及び、渡辺⑤の三氏の呼びかけのもとに、宮島先生を迎えて平成四年七月スタート、世話人各位の努力によって回を重ね、今年で五回となりました。

この集いの特色は、ただの飲み食いとどまらず、常に、同窓会の発展を目指したテーマをかかげることにあり、今回は、「新農政と都下農業」及び、学園運営の現況についての講話を依頼、来賓としてお迎えした宮島先生の助言をうけて、実に楽しいひとときとなりました。

懇親会では、出席者全員が自己紹介に熱弁をふるい、時間の経つのも忘れる盛況振りで、最後は、恒例の寮歌で散会となりました。

同窓会本部に於いては、創立五十周年記念事業推進に大変なご苦労様で、我々としても、募金運動に出来るかぎりの努力を誓い、一日でも早い目的達成を祈って報告とします。

文責 箱山 豊⑬



第五回第二十三期生九州大会を開催!!

実行委員会会長 鳥居 憲太郎

去る十一月五、六日、第五回鯉淵学園第二十三期生九州大会が、熊本県青年会館に、全国各地から五十四名の同期の仲間が集った。今回は、特に宍戸弘明学園長先生と砂田義雄先生がご多忙の中、ご出席をいただいた。

一日目会場となった会館のロビーに一番乗りした久慈君と伊与田君をはじめ、中橋君、矢崎さんと懐かしい面々が続々と集まりはじめた。受付もそこそこ、オッス!!、やあ!!とあいさつが交わされ、中には、「あの人は誰だ」と尋ねる始末で、二十六年ぶりの再会もあり、早々と話に花が咲いたようであややかにいった。

受付の時間までには殆どの人が集まり、二台のマイクロバスに分乗して、熊本城見学に出発した。熊本は修学旅行や出張等で来た人がわずかで、天守閣から一望できる熊本市内に目を見張っていた。

会館に帰ってから、山崎君編集による過去の茨城大会、岩手大会等のビデオの大スクリーンに、その様子を懐かしく、食い入るように見入っていた。

開会式では、この九州大会を目前にして急死した熊本の池田君と宮崎の戸田君の他三名の仲間へのご冥福を祈って黙とうをした。式で九州大会実行委員会の鳥居会長のご挨拶があり、宍戸学園長

より学園の現況と将来のビジョンを、砂田先生からは同窓会の件(五十周年記念大会等)や諸先生方の動静についての報告があった。経過報告の後、五十嵐君を座長に選出して、三件を参加全員の了承を得た。

一、学園五十周年記念の件で、今大会参加者一千元と一口(二万円)以上の寄付をすること

二、次期開催地を平成九年(三年後)北陸三県(福井、石川、富山)で実施する

三、同窓会費を必ず納入する旨の確認と同期生への呼びかけをする

閉会のことばを次期開催地として三田村君が、力強い宣言の挨拶で終り、全員で記念写真に収まった。

懇親会は、中橋君の乾杯音頭の発声で始まり、熊本県代表民謡の「おてもやん」などの踊りの披露があり、全国きき酒大会と「郷土の味」の紹介でお国自慢の味に舌鼓をうった。各自の近況報告がある頃には、二十六年前を思い出しながら、学生時代に帰ったかのように、時間の経つのを忘れて語り続けた。最後に全員で肩組み合って輪をつくり、寮歌をたからかに歌った。

二日目は、水前寺公園の早朝散策後朝食を済ませて、阿蘇観光へと出発した。途

中阿蘇猿まわし劇場に立ち寄り、お猿さんの妙技に酔いながら、笑い感動を覚えた。中岳噴火口は、残念ながら立ち入り規制がとられ、直接見ることはできなかったが、火山博物館の火口カメラの実況で、その迫力を感じることができた。昼食は、全員で噴火口を遠くに見ながら開いた弁当の味はまた忘れられないものとなった。

阿蘇観光を終え下山し、大分県へ行く人、熊本空港へ熊本駅へと、それぞれ帰路に着き散会していった。



一方、佐賀と宮崎コースで、一日余裕の旅をした仲間もいた。今回都合で参加できなかった同期の仲間の皆様、次回の北陸三県で三年後に再会できることを、大いなる楽しみにしたいと思います。

第二十三期生九州大会参加者名簿

平成六年十一月五日～六日

熊本青年会館

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中橋 清美 | 渡辺 忠信 | 福田 祥寿 | 北川 元一郎 | 渡辺 久義 |
| 同夫人 | 色川 巴 | 竹上千恵子 | 田中 義治 | 富田 憲太郎 |
| 久慈 宗悦 | 五味田力一 | 山崎 彰和 | 井口 成子 | 居瀬 幸美 |
| 島津 秀三 | 江幡ゆき子 | 山崎 和子 | 佐藤 徳太郎 | 鳥居 真光 |
| 細川 隆造 | 本橋 隆一 | 伊藤 多恵子 | 木原 睦子 | 長友 比呂 |
| 藤原 雅記 | 山中 宗治 | 小島 金吾 | 遠藤 孝之 | 本高 真義 |
| 同夫人 | 同夫人 | 三村 保雄 | 佐藤 貞晴 | 戸高 義弘 |
| 鈴木 みよ子 | 九石 裕 | 矢崎 涼子 | 橋口 喜子 | 砂田 義明 |
| 五十嵐 竹男 | 小林 恒雄 | 牛山 喜文 | 坂口 義弘 | 宍戸 義明 |
| 小泉 雄一 | 小森 正雄 | 伊与田 忠昭 | 近藤 義明 | |
| 北郷 清一 | 橋本 佐智恵 | 新関 八千代 | | |